

地域のお酒屋さんとして

私は曾祖父の代から続く酒屋を営んでいます。近年は周辺に大型スーパーやドラッグストア、コンビニの進出に加え、ネット販売の影響もあり、町の酒屋はかつての昔ほどの賑わいはなくなりました。しかし、私は「地域に根ざしたサービス」を最も大切にし、日々の営業に取り組んでおります。昔からの常連様はもちろん、最近お顔を初めて拝見する新しいお客様にも、一人ひとりに心を込めて接客するように心掛けています。

ある日の閉店間際、足が遠のいていたお客様が、久しぶりにご来店されました。お話を伺うと、「明日、娘夫婦が帰省するので一緒に飲む地元の日本酒とワインを買いに来た」とおっしゃり、色々と商品を見ながらリクエストをいただきました。私も適切な商品や飲み方をご案内し、お客様のご希望に寄り添って地元ならではの酒の良さをお伝えできるように努めました。「やはり家族と地元のお酒を味わうのは格別です。温かい気持ちになりました」、「こんな風に気軽に相談できる酒屋さんがあるから助かるよ」とお褒めの言葉をいただき喜んでくださったその笑顔が、私にとって何よりの励みです。お客様の温かい想いが伝わってきて、改めてこの商売のやりがいを感じた瞬間でした。そういう声や想いにこれまで以上に応えたいと思い、配達や商品の提案、ご家族の嗜好にあわせたおすすめなど、それぞれのお客様に柔軟に対応しています。

また別のある日、お客様がギフト箱入りのワインを持参してご来店されました。お話を伺うと、友人からお土産で貰ったワインでした。ただ、そのワインはコルクが途中で折れていました。お客様が自宅でワインを開けようとしたけれど、自分で最後まで開けることが出来ず困ってしまい、どうにかしてほしいとのご相談でした。私は専用器具で折れて残ったコルクを慎重に抜き取り、ワインをお客様にお渡ししました。

そのお客様がご近所の方々に「親切な酒屋さんがある」と話され、近隣の方々が贈答用のお酒や季節の地酒選びにも度々ご相談を受けることが増えました。

このように地域に根ざした小さな酒屋には、便利さだけでなく人と人、酒屋と地域との「信頼関係の大切さ」があります。

私は「ただお酒を売る」だけではなく、小さな気配りや地域のニーズを汲み取ることで、それが信頼や笑顔につながり、やがて自分自身の誇りや仕事としてのやりがいとなることを実感しています。酒屋という仕事を通して、地域社会の一員としての責任と喜びを、日々感じています。

最近では町内行事との連携や、地元企業・団体のイベントを通じた奉仕活動にも積極的に参加し、地元の皆様と交流を深める機会も増えてまいりました。今後も地域の小さな声や変化に寄り添い、多様なニーズに応える酒屋として、日々精進したいと思います。